河川敷に水がたまると・・・・

藤 塚 治 義

河川敷の植物は河川の洪水や氾濫によって生育する環境が生まれたり消えたりする宿命をもっている。河川敷をかきまわして水をためると色々な植物が目をだしてくることは各地で紹介されている。

昨年（2003年）、筆者の勤務先の裏にある信濃川河川敷で偶然できた水溜りに今までそこでは見られなかったミコシガヤが大量に発生したので紹介する。

住所：新潟県三島郡越路町浦地先
（信濃川越路橋上流右岸河川敷）

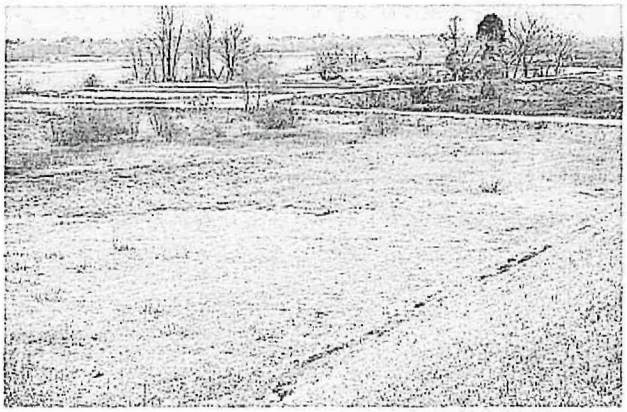

写真1　全景（2004. 4. 13撮影）

ここは高水敷（比高の高い箇所）であり、通常の洪水では冠水することはまずない箇所である。

写真2　つぶれた配水管付近（2004. 4. 13撮影）

やや上流に五百島排水樋管からの排水がありこの河川敷を横切って排水路がある。しかし、昨年の春に誰かが大型の車両をここで走らせて、配水管をつぶしてしまった。写真のように、1年経ってもタイヤの跡はくっきりと残っている。

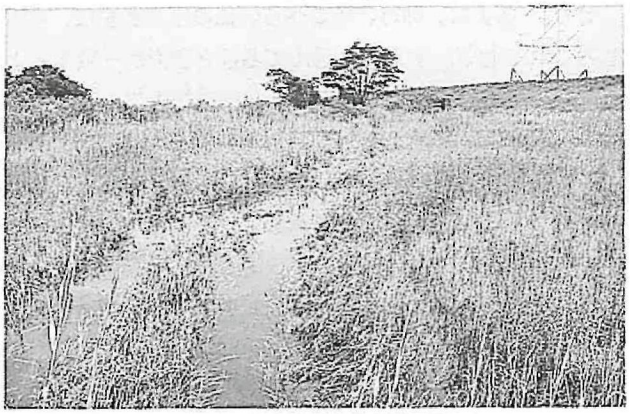

写真3　湛水した状態（2003. 8. 20撮影）

排水が塞がれたため、雨と排水がたまりちょっとした湿地が形成された。

それまでは乾燥した河川敷の草原であったが、わずか3ヶ月ほどで、ミソハギとミコシガヤが大量に芽を出した。それまで特に注意を引くような環境ではなかったため、調査記録がないが、シバ、ヨモギ、クズ、ハルシャギクなどが目につく程度で湿生植物などは見られなかった場所である。この時点でも、水に浸かっていない箇所はミソハギもミコシガヤもわずかである。

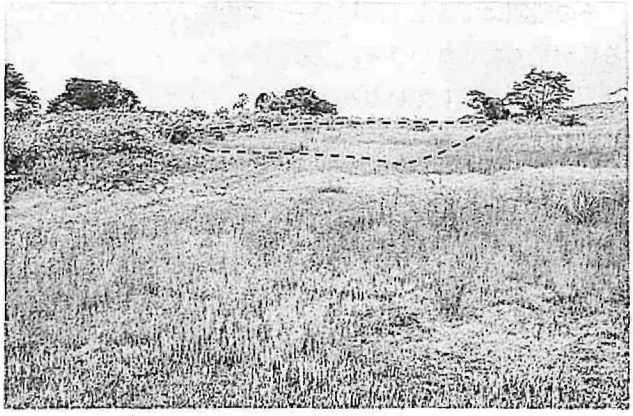

写真4　遠景（2003. 8. 20撮影）

水のたまったところにだけ、湿生植物が繁茂している。特に多いのは、ミソハギ、ミコシガヤ、クサネムであった（点線内）。

河川敷のかなり固い土砂の上に水を溜めただけで、回りとぜんぜん違う植物が目を出してくるということは、なかなか面白いことである。これらの種子はどこから来たのか、